

氏名	増 地 廣		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 4 5 5 号		
学位授与の日付	昭和46年 3 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	呑竜系ラットの染色体及び長期培養による染色体変化について		
論文審査委員	教授 小川勝士	教授 妹尾左知丸	教授 小田 琢三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1. Autosomal polymorphism in Donryu strain rats.

Masuji, H.; Acta Med. Okayama 24, 81-91, 1970.

(呑竜系ラットの体細胞染色体多型)

呑竜系ラットの正常核型を決定した。染色体数は42, 動原体の位置によりA, B, Cの3グループに分類した。最小のサブテロ染色体(B-4)に3種の型((I), (II), (III))の存在を発見し, (III)の型は(I)と(II)の型動物をそれぞれ組合せて交配することにより実験的に作ることが出来た。

2. Changes of somatic chromosomes of rat liver cells in vitro cultivation.

Masuji, H.; Acta Med. Okayama 24, No. 6, 1970. (in press)

(呑竜系ラット肝由来細胞の in vitro に於ける染色体変化)

ラット肝由来細胞の in vitro での染色体が経時的に調べられた。培養日数と共に細胞の染色体は数及び型において以下の如く変化した。

正二倍体細胞は培養100日頃から減少し, 350 から 500日までに完全に消失した。染色体数モードは正二倍体→偽二倍体→低二倍体→高三倍体乃至は低四倍体域へと移った。異数体化が完成される低二倍体細胞の優勢な時期は続いて起る造腫瘍性獲得との関連において注目された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本所究は呑竜系ラットの正常核型を決定し3グループに型分けし, 又長期培養による染色体変化を検討したものであるが, 呑竜系ラットの染色体について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は, 医学博士の学位を得る資格があると認める。